社会評論　第176号

●巻頭エッセイ・春夏秋冬――――――――――――――――――――――――――しゅんかしゅうとう

今は福島のこと、いつかはあなたの町のこと　福島原発避難者　木田節子　2
脅かされる在日朝鮮人の生活と人権　在日本朝鮮人人権協会　金静寅　7
フィリピン巨大台風 被災者に苦痛強いる先進国の支援策　ジャーナリスト　竹見智恵子　10

〈労働者通信――労働・生活・闘争の現場から〉
権利はかちとるもの――わたしが労働組合で学んだこと　日本航空キャビンクルーユニオン JAL不当解雇撤回裁判原告　小森啓子　14
オスプレイ・日米合同軍事訓練に反対して――いのちと暮らしを守る県民連絡会が結成される　高崎平和フォーラム 事務局長　高橋正巳　18
原発震災から四年目を迎えて――被災地の子どもと教職員はいま　福島県教職員組合 書記長　角田政志　20
「労働者通信」に望むもの――自分の労働のなかから伝える言葉を探して　民間零細事業所労働者　田口ケイ　22

〈特集――壊憲の危機になにをなすべきか〉
憲法と特定秘密保護法と「知る権利」――「人権と報道・連絡会」のシンポジウム基調報告より　東京大学名誉教授 憲法学者　奥平康弘　24
壊憲とTPPを必要とする日本独占資本――安倍政権・日本独占資本の帝国主義的国家再編　国際労働運動研究　新田進　32

〈寄稿〉
労働者の主体を強化せよ！ いまが歴史の転換期である　国鉄闘争を継承する会代表 元国鉄闘争共闘会議議長　二瓶久勝　56

〈インターナショナル・レビュー〉●2014国際婦人デー集会に寄せられた国際連帯のメッセージ=◎アントニオ・パリス(フィリピン共産党(PKP―1930)書記長)◎韓国・労働社会科学研究所◎チョン・ヨノク(民主労総プサン地域本部非正規委員長)◎在日本朝鮮民主女性同盟中央本部◎金好子(在日韓国民主女性会)／●ウクライナとクリミアの住民投票に関するギリシャ共産党中央委員会報道局の声明／●武器輸出禁止政策を撤廃した日本政府料弾記者会見――韓国・平和と統一を切り拓く人びと／●「法治」の看板下で行なわれた強奪・詐欺劇――朝鮮労働党機関紙「労働新聞」論評　113

二〇〇八年世界恐慌後の長期停滞――新たな段階に入った資本主義　世界経済研究　小野利明　73

壊憲・戦争・貧困の流れをいかにして止めるか――二〇一四年「国際婦人デー3・8東京集会」基調報告　国際婦人デー3・8東京集会実行委員会　村上理恵子　88

〈資料〉
日本の国際婦人デーの変遷と女性労働者の現状　本郷文化フォーラム 女性労働研究会　96

〈状況2014春〉
労働――非正規労働者の団結を求めて――非正規労働者から見た労働法制改悪　元・郵政産業労働者 雇用労働者　丸山こじり　158
国際――朝鮮半島情勢の緊張と米韓軍事演習――軍事緊張の真の因果関係を突きとめよう　京都・南山法務生活総合センター　金秀煥　164
映画――戦後的批評性の不在――映画「永遠の0」の何が問題なのか　編集者　遠藤裕二　169

〈続・拉致問題で歪む日本の民主主義㊵〉
ようやく動き出した拉致問題――旧来の視点に固執するマスコミには展望を描けるのか　琉球大学 名誉教授　髙嶋伸欣　104

〈韓国の論調〉
韓国労働運動の進路をめぐる論争――韓国・日本・ギリシャをつなぐ道　韓国・全国労働者政治協会　白喆鉉　130

〈読書ノート〉
白宗元著『検証　朝鮮戦争』――日本はどうかかわったか　日本コリア友好協会　二瓶一夫　174
目取真俊著『目取真俊 短篇小説選集1・2・3』　作家　黄英治　176
黄英治著『あの壁まで』　歌人／元・古河商業労組文学サークル　荒川源吾　178
伊藤孝司写真・文『無窮花の哀しみ――【証言】【写真】朝鮮人女性たち』　本郷文化フォーラム 女性労働研究会　倉田智恵子　180

〈川柳／笑歌〉
派遣小唄　笑い茸　86

〈連載〉
〈原発事故被災者の声③〉東日本大震災・壊滅地区復興委員だより③　國分富夫　103
〈源八おじさんとタマ⑨〉　中村徹　11
〈波来土の漫画館〉　波来土　13
〈イラスト通信〉　広浜綾子　15

〈読者のたより〉
本誌前号「透谷から啄木へ」についての考察――東京西部読者会(三月十六日実施)における報告　語学教師　志賀盛久　182

〈読者会から〉
東京西部／千葉　189

〈表紙の絵について〉
『LINE』(Acryl on canvas　三六〇×一八〇cm)　美術家　朴一南　9

〈デザイナーの独り言〉　追川恵子　192

編集後記　192

表紙デザイン・追川恵子　イラスト・金山政紀

『社会評論』１７６号の訂正とお詫び　　『社会評論』１７６号（２０１４春）の二瓶久勝氏の〈寄稿〉の見出しに誤りがあり、左記のように訂正いたします。

（誤）労働者の主体を強化せよ！　いまが歴史の転換期である　→　（正）労働者の主体を強化すれば、いまが歴史の転換期である

これは、もともと筆者の二瓶氏が（正）の見出しを付けて『社会評論』編集部に送ってこられたにもかかわらず、同編集部が二瓶氏の了承を得ずに独断で（誤）の見出しを付けたもので、労働者とともに闘うことを信条としている二瓶氏の思想をゆがめる見出しになっています。

以上、筆者の二瓶氏に深くお詫びし、（正）の見出しに訂正しますことを、ここにお知らせいたします。　　『社会評論』編集部